

日本感情心理学会第34回大会 大会発表賞 選考過程

学術プログラム委員会委員長 一言英文

日本感情心理学会第34回大会（2026年4月24日－26日）では、63件の研究発表（ポスター発表）が行われました。そのうち、35件が大会発表賞の審査対象になることを希望し、日本感情心理学会優秀発表賞選考委員会による審査を行いました。

大会発表賞選考規程に基づき、学術プログラム委員会委員長を中心に日本感情心理学会優秀大会発表賞選考委員会を組織した上で、第一次選考と第二次選考に分けて選考を行いました。

第一次選考では、事前に提出された発表抄録に基づいて、審査対象者（第一著者）が審査員となり31歳以上の研究発表では上位3つ、30歳以下の研究発表では上位5つの研究発表へ投票し、最終候補演題を絞りました。

第二次選考では、最終候補演題に対して7名の審査員が可能な限り現地での発表を聞いて5つの軸（新規性、方法等）で評価を行いました。

具体的には、第一次選考は以下のような形になりました。

- ・30歳以下の発表賞へのエントリー数が14演題。うち1エントリーは審査中に辞退のため、実質エントリー数は13演題。一次審査得票数が上位の3演題を二次選考対象として選定。
- ・31歳以上の発表賞へのエントリー数が21演題。一次審査得票数が上位の5演題を二次選考対象として選定。
- ・合計8演題を二次選考の対象としました。

続く第二次選考では、1）新規性評価、2）方法の評価、3）学術的・社会的貢献度の評価、4）発表力評価、5）総合性評価について、7名の第二次選考委員が5段階による評価を行いました。

第二次選考委員の評価に基づき、学術プログラム委員会を中心に優秀発表賞（1件）、若手優秀発表賞（1件）を選定しました。なお、今回の優秀発表賞対象は、実際は若手枠での発表でしたが、以下の規定に基づきまして優秀発表賞と致しました。

（選考対象と選考手続き）

第4条 優秀発表賞と若手優秀発表賞の選考手続きは以下のように定める。（1）受賞者数と重複受賞については以下の通り定める。年次大会ごとの優秀発表賞と若手優秀発表賞

の受賞者は、各賞 2 名程度とする。優秀発表賞と若手優秀発表賞の同一年次大会内での重複受賞は不可とし、両賞に同一の発表が推薦された場合は優秀発表賞として優先して表彰する。優秀発表賞及び若手優秀発表賞の各賞と精励発表賞の同一年次大会内での重複受賞は妨げない。

以上